



兵庫教育大学の 教員就職支援

学生の就職活動への支援は、多くの学生の最終教育機関である大学の最重要機能の一つです。とりわけ、「優れた新任教員の養成」という明確なミッションを持つ本学にとっては、学生が教職へ就くことによってそのミッションは果たされるといわなければなりません。

本号の「データで見る兵教生」に示されているように、平成23(2011)年3月の学部卒業生は80%が教員と保育士に就いており、国立教育大学・学部の中では1位です。このような高い教員・保育士就職率はこの数年間維持されています。公務員や民間企業を含む就職希望者の全体就職率も96%と高く、大学院へ進学する者も増えてきています。

大学院については、23(2011)年3月の40名の教職大学院修了者(現職教員を除く)は博士課程進学者1名以外の全員が教職に就きました。修士課程理数系教員養成特別プログラムの受講者はこれまで全員が理科ないし数学の教員に正規採用されています。修士課程の臨床心理や学校心理のコースからは、スクールカウンセラーなどの心理専門職に就く者も少なくありません。

本学は教員養成大学であり、大多数の入学者が確固とした教職志望意思を持っていますので、学生自身が自主ゼミをつくるなど、教員採用試験に向けて努力する雰囲気があります。本学の教職員は、当然のことではありますが、学生の就職へのアドバイスや指導の必要性・重要性をよく認識しており、ゼミやコース単位での教採対策の取組も行っています。大学全体の支援組織として就職支援室を設置して、学科試験の傾向・対策や模擬面接、合格者報告会などの多種の教採対策講座を計画的・継続的に実施し、校長経験のある指導員が学生の相談に応じています。教職大学院研究・連携推進センターもほぼ同じ取組を行っていますし、総合教職キャリアセンター設置準備室では教職の基礎や魅力に焦点を当てた講座やキャリア相談を実施しています。

このような本学の厚く、きめ細かい支援体制、教職員の熱意と、学生の努力とがマッチして高い教員就職率が生まれているといえるでしょう。課題を一つ述べてみましょう。本来的には、大学の正規のカリキュラムや授業が教員就職への準備となるべきです。そのような要素を意識的に教育活動と学生指導に取り入れている教員やコースも少なくありませんが、今後、本学が独自開発した教員養成スタンダードや中教審で審議中の教員養成の修士レベル化を見据えながら、さらに正規カリキュラムと就職支援との結合・連動を進めていく必要があります。

来年度からは、総合教職キャリアセンター(仮称)のもとに大学全体の就職支援体制を一元化し、支援活動をより効率的・効果的に推進することとしています。

かじさてつや
学長 加治佐哲也